

平成 28 年度事業報告書

I 公益財団法人京都市環境保全活動推進協会 法人概要

1 設立目的及び概況

(1) 設立目的

この法人は、持続性可能な社会、すなわち低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現するため、市民・事業者・行政・教育機関と連携を強め、広く環境保全活動を推進することにより、環境に配慮した市民の自主的な行動による地域社会づくりに寄与することを目的とする。

(2) 概 況

ア 設立年月日

平成 13 年 2 月 14 日

イ 出捐金

金 50,000,000 円（全額京都市出捐）

ウ 実施事業

- (ア) 環境意識の普及、啓発に関する事業
- (イ) 環境情報の発信事業
- (ウ) 環境保全に関する調査、研究に関する事業
- (エ) 環境教育及び人材育成に関する事業
- (オ) 環境保全のための市民、事業者等との連携、支援に関する事業
- (カ) 環境意識の向上のための国際的な連携、支援に関する事業
- (キ) 環境保全活動に関する施設の管理運営
- (ク) その他、この法人の公益目的を達成するために必要な事業

2 役員等の状況（平成 29 年 3 月 31 日現在）

(1) 役員等の数

理事長 1人 専務理事 1人
 理事 7人 監事 2人 評議員 12人

(2) 役員等名簿

ア 役員名簿

（敬称略・順不同）

役職	氏名	備考
理事長	高月 紘	京都大学名誉教授
専務理事	浅野 和子	公益財団法人京都市環境保全活動推進協会事務局長
理事	杵本 育生	特定非営利活動法人環境市民代表理事
〃	田浦 健朗	特定非営利活動法人気候ネットワーク事務局長
〃	橋本 直子	株式会社 Hibana 代表取締役
〃	花田真理子	大阪産業大学大学院人間環境学研究科教授
〃	久山喜久雄	フィールドソサイエティ代表
〃	水山 光春	京都教育大学教授
〃	松浦 卓也	京都市環境政策局地球温暖化対策室担当部長
監事	野村 克章	税理士
〃	下間 健之	京都市環境政策局環境企画部長

イ 評議員名簿

（敬称略・順不同）

役職	氏名	備考
評議員	浅利 美鈴	京都大学地球環境学堂准教授
〃	市川 智史	滋賀大学環境総合研究センター教授
〃	土山希美枝	龍谷大学政策学部准教授
〃	中田富士男	京都市ごみ減量推進会議理事
〃	永橋 爲介	立命館大学産業社会学部教授
〃	長屋 博久	有限会社村田堂取締役
〃	原 強	特定非営利活動法人コンシューマーズ京都理事長

〃	山元 新司	株式会社京都銀行公務・地域連携部地域活性化室長
〃	糸 善子	有限会社思風都代表取締役会長
〃	周 瑋生	立命館大学政策科学部教授
〃	田中 克	京都大学名誉教授
〃	森元 正純	京都市環境政策局地球温暖化対策室長

3 理事会・評議員会の開催状況

(1) 理事会

	開催日	審 議 事 項	結果
第 11 回	平成 28 年 5 月 31 日	議第 1 号 平成 27 年度事業報告書 (案) 議第 2 号 平成 27 年度決算報告書 (案) 議第 3 号 定時評議員会の日時及び場所並びに目的 である事項等 (案) 議第 4 号 中期経営計画 (案) について 議第 5 号 平成 27 年度財政援助団体等監査について (報告)	承認 承認 承認 承認 承認
第 12 回	平成 28 年 6 月 15 日	< 書面決議 > 議第 1 号 代表理事 1 名選定の件 (案) 議第 2 号 専務理事 1 名選定の件 (案) 議第 3 号 事務局長 1 名委嘱の件 (案)	承認 承認 承認
第 13 回	平成 28 年 8 月 19 日	< 書面決議 > 議第 1 号 評議員会の決議の省略についての承認の件 (案) 議第 2 号 評議員 1 名選任の件 (案)	承認 承認
第 14 回	平成 28 年 11 月 29 日	議第 1 号 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況につい て (報告) 議第 2 号 事業運営委員会及び作業部会のまとめ (報告) 議第 3 号 2017 年度～2020 年度における事業運営について (案)	承認 承認 承認
第 15 回	平成 29 年 3 月 22 日	議第 1 号 平成 29 年度事業計画書 (案) 議第 2 号 平成 29 年度予算書 (案) 議第 3 号 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況 (報告)	承認 承認 承認

(2) 評議員会

	開催日	審 議 事 項	結果
第 5 回	平成 28 年 6 月 15 日	議第 1 号 平成 27 年度事業報告書 (報告) 議第 2 号 平成 27 年度決算報告書 (案) 議第 3 号 理事の選任 (案) 議第 4 号 監事の選任 (案) 議第 5 号 評議員の選任 (案)	承認 承認 承認 承認 承認
第 6 回	平成 28 年 8 月 30 日	<書面決議> 議第 1 号 評議員 1 名の選任の件 (案)	承認

4 職員数 (平成 29 年 3 月 31 日現在)

(単位：人)

年 度 末	理 事 長	専 務 理 事	総 務 課						事 業 課							合 計	
			事 務 局 長	課 長	課 長 補 佐	事 務 職 員	再 雇 用 職 員	小 計	部 長	課 長	課 長 補 佐	事 業 職 員	事 務 職 員	研 修 職 員	臨 時 職 員		小 計
28	1	1	(1)	1	0	2	1	4	1	2 (1)	0	9	1	5	1	19	25

※事務局長は、専務理事が事務取扱としている。また、事業課長のうち 1 名は、事業部長が事務取扱としている。事務取扱対象者には、()で表示をしている。

Ⅱ 平成 28 年度実施事業内容

1. 公益目的事業

[1] 京都市環境保全活動センター（京エコロジーセンター）指定管理事業

（ 1 ） いろいろな主体が学び、育つステージの提供

● 1-1 館内・館外の環境学習プログラムの開発、実践

ア プログラム対応

団体見学では、国内外から様々な団体の見学受け入れを行ないました。年間受け入れ件数は、団体見学が 164 件 5,018 名、京都市立小学校を対象にしたセンター学習が 132 件 3,961 名、合わせて 296 件 8,979 名の受け入れを行いました。また、団体見学を広く広報し、見学者数の増加を図るために、京都市近隣の小学校や旅行会社を対象にした団体見学チラシをそれぞれ作成し配布しました。館外におけるプログラム対応では、京都市立小学校において出前授業を 1 回実施しました。

イ プログラム開発

3 階子ども広場に小さな子ども向けコーナーとして、日本のおもちゃ作家の木製おもちゃを中心に 20 種類以上のおもちゃを集めた「木のおもちゃひろば」を設置しました。また、一般来館者増加を目的にエントランス活性化プログラムとして、2 つのイベント「エコセンまるっとまるかじりスペシャルデイ」と「えこせんプレーパーク」を実施しました。あわせて職員によるミニプログラム「ちきゅまるひろば」（54 回開催、のべ 376 名参加）、「かえっこバザール」（6 回開催、のべ 1,412 名参加）も開催しました。

ウ 環境副読本

小学 4 年生、5 年生、中学生向けの 3 種類の環境学習に役立つ環境副読本を作成し、京都市内の全小中学校に配布しました。総合的な学習の時間はもちろん、各教科内で環境をテーマに学習する際に活用されています。また、小学 5 年生向けの環境副読本には、各テーマのインタビュー記事の掲載とあわせて、学習の補助教材として活用できるインタビュー動画を作成しました。

環境副読本インタビュー動画：<http://www.miyako-eco.jp/advice/>

エ 企画展示

年間で企画展を 12 件、関連イベントを 6 回開催しました。その内、共同主催型では NPO や事業者をはじめ 11 団体と企画展を開催しました。7 月からは食品ロスをテーマにした「食べものどうなっ展」、10 月からは SDGs をテーマにした「世界の目標 SDGs のはなし&京都から私たちにできることを探そう！」を開催し、SDGs の紹介と合わせて、SDGs に向けた取り組みを行なっている様々な団体の取組紹介を行うなど、最新のテーマについて情報を発信することが出来ました。

開催期間	タイトル（共催団体名など）
6 月 1 日～6 月 24 日	公募型企画展 「平成 27 年度（第 13 回）京都環境賞受賞者の活動紹介パネル展」 （京都市環境政策局環境企画部環境管理課）
7 月 5 日～8 月 31 日	「電車に乗っておでかけしよう！アート×エコロジー『布・ヒモから遊べる電車作り！』」作品展
7 月 13 日～9 月 28 日	「食べものどうなっ展」
7 月 13 日～8 月 31 日	共同主催型企画展 「素敵な漂流物も悲しいごみも～『海の京都』からの報告～」 （琴引浜ネイチャークラブハウス）
8 月 1 日～8 月 31 日	公募型企画展 「平成 27 年度（第 13 回）京都環境賞受賞者の活動紹介パネル展」 （京都市環境政策局環境企画部環境管理課）
9 月 14 日～10 月 16 日	共同主催型企画展「菴連也展及び広友グループ環境活動紹介展」 （広友ホールディングス株式会社）
10 月 1 日～12 月 25 日	共同主催型企画展「世界の目標 SDGs のはなし&京都から私たちにできることを探そう！」 （認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス，認定 NPO 法人アクセス，公益社団法人 日本国際民間協力会（NICCO），JICA 関西，京都市職員国際協力研究会 arco iris，京のアジェンダ 2 1 フォーラム）
10 月 19 日～10 月 26 日	共同主催型企画展「第 32 回京都まちとみどり写真コンクール展示会」 （京都府都市計画協会）
11 月 2 日～11 月 27 日	「環境カレンダー原画展」
11 月 2 日～12 月 25 日	「マンガで見る世界の国と温暖化展」
1 月 7 日～1 月 31 日	共同主催型企画展「『海のエコラベル』を知っていますか？～持続可能な漁業の証・MSC と『海のエコラベル』展～」（海洋管理協議会（MSC））
2 月 10 日～3 月 26 日	「もり森 もく木 りん林展 ～山の木から，暮らしの木まで～」

● 1-2 環境ボランティアの育成・支援

ア 新規養成講座

京エコロジーセンター（以下、センター）の環境ボランティアとして活動するために必要な知識や考え方を学ぶ新規養成講座を、1月～3月の期間に全5回（6日間）及び実習（12日間）を開催しました。講座では、ボランティアについて、またセンターや環境問題についての基本的な知識を学びました。その他にもコミュニケーションや環境学習プログラムづくりを体験し、実践するワークショップを行いました。講座受講者25名のうち、20名が登録しました。

	開催日	タイトル
第1回	1月8日	エコセン/ボランティアきほんのき
第2回	1月22日	環境問題/エコセンの展示きほんのき
第3回	2月4日	環境学習きほんのき
第4回	2月11日, 12日	環境学習の場をつくり・まわすきほんのき
第5回	3月11日	これからのエコメイト活動について&登録説明会

イ ステップアップ研修

環境ボランティア活動がより充実したものとなるよう、1年目から3年目までの活動年数に合わせて、活動に必要な知識や技術を習得することができるよう、研修を企画・実施しました。電気や水、ごみ、地球温暖化などの環境問題の知識を得るためのものや、来館者とのコミュニケーションの取り方、環境学習プログラムのつくり方など、様々なテーマで全8回のステップアップ研修を実施しました。

ウ マネジメント全般

環境ボランティアは、自ら環境に配慮したくらしを実践するとともに、ガイド活動・グループ活動・サポート活動という3つの活動を通じて、環境に配慮したくらしを伝えていく役割を担っています。その役割を十分に果たせるように、ボランティア全体に共通する場・ツール・コミュニケーションチャネルを整備し、それらを活用してボランティアのモチベーションの向上や活動における課題解決を図りました。

開催日	タイトル
4月3日, 9月11日, 3月19日	全体マネジメントの会
7月3日, 12月23日	ボランティア全体ミーティング

● 1-3 子どもから大人まで環境人づくり

ア えこそら屋上

環境ボランティアとともに、屋上ビオトープの管理と活用を行い、暮らしと自然や生きものとのつながりを伝えました。ビオトープ活動では、草刈りなどの管理作業と生きもの調査、案内板の更新、ビオトープクイズの設置をしました。えこそらキッズ活動では、小学1～4年生とその家族の方を対象に年14回にわたり、お米や野菜の栽培や生きもの観察、エコクッキングなどを実施し、最後に活動をまとめた絵巻を作りました。

	開催日	タイトル
第1回	5月21日	オリエンテーション・緑のカーテン・夏野菜植付
第2回	6月11日	田植え・夏野菜植付・玉ねぎ収穫・かかし設計
第3回	7月2日	かかし作り
第4回	7月23日	収穫・生きもの観察
第5回	8月6日	収穫・藍染
第6回	8月27日	収穫・冬野菜種まき
第7回	9月10日	緑のカーテン片づけ・冬野菜植付
第8回	10月1日	稲刈り
第9回	10月22日	落花生収穫・芋ほり
第10回	11月5日	脱穀・もみすり
第11回	11月26日	食に関するゲーム・絵巻準備
第12回	12月10日 12日17日	クッキング
第13回	1月14日	絵巻づくり
第14回	1月28日	発表会・ふりかえり・修了式

イ 連続講座でいねいに暮らしを創る

衣・食・住といった暮らしに直結するテーマやパーマカルチャーなどを取り上げ、消費するのではなく、自分たちで「創る」ということを通して、環境負荷を減らしながら楽しく心豊かに暮らす方法について体験的に学ぶ講座を5回シリーズで開催しました。

また、参加者が講座を通して学びを深めるとともに交流し、活動の輪を広げるために、講座終了後にはメーリングリストの立ち上げやスピンオフ講座を開催しました。

ウ 環境教育リーダースタートアップ講座

環境教育実践の担い手を育てるために全6回の連続講座を実施し、16名の修了生を輩出しました。平成28年度は「子どもと関わる大人」を対象に、子ども向け環境教育のノウハウについて学べるよう、自然体験やまち歩き、環境学習プログラムづくりなどを

テーマとして、講義だけでなく体験やワークショップなどをまじえた実践的な講座内容としました。修了生からは、「身近な環境の中に環境教育の素材を見つける視点を新たに得られた」などの感想がありました。

エ 自然エネルギー学校・京都

「はじまる自然エネルギー100%時代」と題して、自然エネルギーに関する国内外の現状や事例について学べる講座を全4回にわたり開催しました。電力小売り自由化と日本のエネルギー政策、太陽熱や木質バイオマスなどの熱利用に関する講義やワークショップを実施しました。また最終回では、自然エネルギーを活用した地域再生・活性化の事例として、岡山県西粟倉村に視察に行き、小水力発電や地域での熱利用の可能性について考えました。

オ インターンシップ受け入れ

損保ジャパンCSOラーニング制度を活用し、長期の大学生インターン1名を受け入れました。祇園祭ごみゼロ大作戦のボランティアリーダー参加、センターでの来館者対応やイベントサポート、「ちきゅまるひろば」の実施など、様々な業務を行いました。また、同世代の若者に環境意識を高めてもらうために、職員とともにイベントを企画・実施しました。企業や学生団体より事例発表を行い、参加している若者が持続可能な社会に向けた課題について話し合い、「エコな未来提案」として発表しました。

カ 職場体験受け入れ

京都市教育委員会による「生き方探求・チャレンジ体験」の受け入れを行いました。年間で4校13名の生徒を受け入れました。教員との事前打ち合わせや、生徒の事前訪問時に希望する体験内容を聞き、活動に反映させるなど充実した体験となるように工夫しました。また、中学生が職員や環境ボランティアにインタビューし、仕事やボランティア活動への思いを聞くなど、様々な人と関われるように意識し、受け入れを行いました。

受入校	受入期間	受入人数
藤森中学校	11月1日～2日	4
西京高等学校附属中学校	11月7日～9日	2
深草中学校	11月8日～10日	4
伏見中学校	1月24日～25日	3

(2) いろいろな主体による環境保全活動への支援と連携

● 2-1 地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携

地域社会において、環境保全活動が活発に行われるようになることを目的に、様々な主体（地縁組織、教育機関、市民団体、事業者など）との連携・支援に取り組みました。特に京都市内の各地域で催されるイベントや行事において、参加した子どもたちがエネルギーについて学ぶことができる環境啓発ブースの出展や、地域の各種団体が実施する集会などで省エネやごみ減量に関する学習会を実施するなど、様々な主体と連携した地域での環境活動を 35 回実施しました。

(3) 持続可能な地域社会への提案、情報発信と交流

● 3-1 情報発信・広報対策

ア 図書

図書コーナーでは、約 7,000 点の資料（図書・雑誌・視聴覚資料など）を通じて、環境問題や環境学習に関する情報を発信しています。年間の利用状況は、資料の貸出がのべ 631 名 2,321 冊、新規図書利用者カード登録者が 170 名でした。また、図書コーナーの認知度を高めるため、本の交換会「ほん・で・チェンジ～交換しよう、そうしよう～」や、除籍資料を市民に譲渡するイベント「ほん・で・リング」を開催し、図書コーナーの認知度向上を図りました。

イ 通い帳

来館者がスタッフとの関わりを通じて、環境への学びを深めることを目的とした「エコセン通い帳」を運用しています。チャレンジカードに書かれた指令をクリアするとスタンプが集まり、一定数集まるとノベルティや、10 個集めた来館者には「エコの達人認定証」を贈りました。通い帳は楽しく環境について学ぶことが出来ることから、継続的な来館を促し、年間でのべ 2,397 名の参加がありました。また、「エコの達人認定証」を 51 枚発行し、スタンプを 60 個集めた殿堂入りは 3 名誕生しました。

ウ 広報・プロモーション

イベント情報紙を A4 サイズのカラー版にリニューアルし、隔月発行しました。イベントの多い夏休みには夏休み特大号を作成し、小学校などに配布しました。また、市政記者クラブなどへのプレスリリース配信を 14 回行い、取材や記事掲載は 17 件ありました。他にもブログと Facebook を連動させた発信や、利用者の多い外部のお出かけ情報サイトにイベント情報を掲載するなどしました。お出かけ情報サイトではバナー広告を掲出し、センターの認知度拡大を図りました。

エ 季刊誌「えこせん」

季刊誌『えこせん』を隔月で年6回（毎号 5,000 部）発行し、センター館内や市内各所に配架しました。季刊誌のコンセプト「京のくらしと人とエコ」や読者のメインターゲットである親子層を意識し、旬の話題をテーマに取り上げたり、家庭で取り組めるエコライフを紹介したりするなど、読者がより読みたくなる誌面を目指して制作しました。また、センターで開催するイベントと誌面の特集を連動させ、読者にセンターへの来館やイベント参加を促すようにしました。

発行月	特集1（人物取材）	特集2（季節に合わせたエコライフの提案）
No.43（6月号）	季節とつくり手がみえるおぼんざい食堂「ひとつのおさら」 オーナー・西村和代さん	毎日のことだから ごみの分別と減量を考える
No.44（8月号）	ひのでやエコライフ研究所 所長・鈴木靖文さん	知って実践！我が家の省エネルギー
No.45（10月号）	いのちの里 京都村 事務局長・林利栄子さん	10月16日は世界食料デー 毎日の食事と食品ロス
No.46（12月号）	シサム工房 代表・水野泰平さん	寒くなってきました 冬こそ、実行！ 家族で省エネ
No.47（2月号）	津乃吉 代表・吉田和親さん	エコ！省エネ！時短！ 干し野菜を活用しよう
No.48（4月号）	洋服のお直し+洋裁教室 渡邊知栄 店主・渡邊知栄さん	登校&登園グッズに ハギレやボタンで簡単エコリメイク

●3-2 イベント（プログラム）の企画と実施

ア イベント統括

親子向けから、大人対象のものまで、環境にあまり関心の高くない方でも楽しみながら暮らしの中でできるエコについて学んでいただけるイベントを企画・実施しました。電力小売り自由化を受け、エネルギーをテーマとした大型イベントや、3Rをテーマとした人形劇、エコクッキング、京都の木を使った工作などを開催しました。また、京都市ごみ減量推進会議とともにフードロスをテーマとしたイベントも開催しました。

- ・平成28年度3-2 イベント事業総参加者数：6,736名
- ・平成28年度3-2 イベント事業件数：企画数29（うち、大型イベントの開催は3企画）
実施件数85

開催日	事業名	講師	参加人数
4月17日	アースデイ&京エコロジーセンター 開館14周年記念イベント「家族でえらぼう！おうちのエネルギー」	出展協力：12団体（14ブース）	1,200
5月8日	「布・ヒモから遊べる電車作り！」	ドットアートコスモ 右脳の散歩道ギャラリー	71
6月26日	「私の部屋が発電所！？ソーラー発電組み立てワークショップ」①	有限会社ひのでやエコライフ研究所	16
7月3日	「私の部屋が発電所！？ソーラー発電組み立てワークショップ」②	有限会社ひのでやエコライフ研究所	14
7月9日	「夏を乗りきる！体にやさしい、旬の重ね煮クッキング」	梅崎和子氏（養生料理研究家）	19
7月18日	「曇ってなあ～に？雲を知って、お天気博士になろう」	一般財団法人日本気象予報士協会関西支部楽しいお天気講座	46
7月23日	「ネッククーラーで夏を乗りきろう！」	ストア・ニードル・ワーク店主 渡邊知栄氏	44
7月24日	「人形劇 3Rエコシアター『森のたんけんたい』」	(有)人形劇団クラルテ	171
7月24日	「私の部屋が発電所！？ソーラー発電組み立てワークショップ」③	有限会社ひのでやエコライフ研究所	13
7月27日	「京都の木で小さな家のペン立てづくり」	グリーンウッドワークかんさい	47
7月29日	「LEDランプで行灯を作ろう！」	パナソニック株式会社エコソリューションズ社	69
7月31日	「親子で作ろう！簡単・便利なキャンプ料理」	山上公実氏（家庭料理研究家）	24
8月1日	「しっくいアートパネルを作ろう！」	ビー・ブロックス一級建築士事務所 岡本頼子氏	24
8月3日	「紙すき体験～紙パックから絵はがきづくり～」	共催 宝酒造株式会社	51
8月5日	「LEDランプで行灯を作ろう！」	パナソニックエコソリューションズ社	67
8月6日	「子どもクッキング教室～自分で作るカンタンごはん～」	鎌田早紀子氏（管理栄養士）	24

8月7日	「京都の木で本立てを作ろう！」	京都木材青年経営者協議会	68
8月9日	「葉っぱや草花でしおりを作ろう！」	名神深草森の会	131
8月20日	「わくわくソーラーカー工作教室」	主催 経済産業省資源エネルギー庁 GREEN POWER プロジェクト／共催 京エコロジーセンター／企画・運営 一般財団法人新エネルギー財団, 株式会社アイエヌジー	105
9月17日	「おうちにあるもん de 簡単パーティークッキング！」	あるもん de プラス	16
10月21日	「冬に備える！体にやさしい、旬の重ね煮クッキング」	梅崎和子氏（養生料理研究家）	15
10月29日	「『都市を耕す-エディブル・シティ』上映会&トーク」	西村和代氏（一般社団法人エディブル・スクールヤード・ジャパン）	26
10月30日	世界食料デー&3R 推進月間記念イベント「食べものどうなるの？～フードロスと未来の食環境～」	主催 京エコロジーセンター・京都市ごみ減量推進会議 出展協力：17 団体（23 ブース）	617
11月26日	リサイクルシルバーで葉っぱのペンダントづくり	小島朗子氏（アートクレイ倶楽部）／協力 相田化学工業株式会社	9
2月4日	おうちで挑戦！毎日食べたい味噌づくり	鎌田早紀子氏（管理栄養士）	55
2月15日	講演会 赤ちゃんから始める木のあ る暮らし～木育の効果と可能性～	講師 多田 千尋氏（東京おもちゃ美術館 館長）	46
2月18日	木のおもちゃで遊ぼう！木育キャラバン in 京都	協力（業務委託） NPO 法人 日本グッド・トイ委員会	3,657
2月19日			
2月25日	農家さんに学ぼう！おいしいお米のクッキング	八代恵里氏 他（農業生産法人 有限会社 かみなか農楽舎）	20
3月8日	赤ちゃんと一緒においしい！重ね煮離乳食講座（初期・中期編）	梅崎和子氏（養生料理研究家）	15
3月15日	赤ちゃんと一緒においしい！重ね煮離乳食講座（後期・完了期編）	梅崎和子氏（養生料理研究家）	23
3月18日	楽しく学べる 伏見の農業学校	伏見わっしょい新党	33

[2] 受託事業

(1) エコ学区に係る学習会等支援業務

京都市との協働により、元学区を単位とする地域コミュニティにおけるエコ活動を促進することで、市民のライフスタイルの転換と、増加傾向にある家庭部門での温室効果ガス排出量削減を地域ぐるみで実現することを目指しています。地域活動にエコの視点を加え、各学区におけるエコ活動が円滑に進むよう、地球温暖化対策やエコ活動に役立つ情報提供などの支援を行いました。

・エコ学区に係る相談窓口業務

京エコロジーセンターに「エコ学区サポートセンター」を開設し（平日 10 時～18 時）、地域ぐるみのエコ活動についてのワンストップサービスの相談窓口として対応しました。エコ学区として宣言した 222 学区に対し、支援物品の企画・調達・配布、学習会などの実施などを通じて、地域ぐるみのエコ活動を促進しました。

1 年間で計 700 回を超える学区へのヒアリングやエコ活動の現場取材、地域への直接アプローチを行うなど、ニーズに合わせ迅速に対応しました。

京エコライフプログラム (3 学区実施)	学区が小学校と連携して行う、地域性をいかしたエコ活動を通じて学区のエコ活動が小学生などの家庭や PTA に広がるように努めました。
エコ学区チャレンジプログラム (2 学区実施)	「創エネ」「エコ×防災」をテーマとした連続プログラムを実施しました。
省エネナビ（電気消費量計測機器）を用いた学習プログラム (2 学区実施)	集会所などに参加者が集まる形式の学習プログラム「くらしの匠～省エネ実感生活～」を参加者のエコ活動が継続し、地域ぐるみの活動につながるよう、学区の要望を取り入れ、柔軟に対応し実施しました。
学習会、啓発ブース出展 (35 学区実施)	様々なテーマで実施し、3,313 名（大人 1,048 名・子ども 2,265 名）が参加しました。
地域の担い手セミナー (3 回実施)	地域のエコ活動の担い手を育成することを目的に、京都商工会議所にて、「まちづくり環境びと実力アップ講座」を開催しました。 (参加者数：大人のべ 86 名)
京都環境賞のエコ学区部門への対応	京都市とともに、各区役所・支所におけるエコ学区推進賞の内申を行いました。

(2) 市民協働発電制度地域コミュニティ版支援コーディネーター派遣業務

京都市との協働により，地域のコミュニティ組織が主体となり，地域に太陽光発電や小水力発電など再生可能エネルギー利用設備を設置しようとする意欲的な取組を支援するため，地域住民の合意形成をはじめ，再生可能エネルギーを活用した発電事業に関する調査や事業化の検討などを行うコーディネーターを4地域に15回派遣しました。

(3) JICA 課題別研修「廃棄物管理能力向上（応用，計画・政策編）」

ブラジルとモザンビークから来日した廃棄物に関わる政府・地方行政関係者を中心とする研修員を受け入れ，約2ヶ月間に渡る研修を実施しました。廃棄物の適正処理のための政策や技術，関係組織間の連携，市民参画などに関する講義，実習，研修旅行などを通じ，研修員が自国の直面する廃棄物問題の解決に有効な政策的・技術的知識を習得し，自国での担当業務に学びを活かすことができるように研修を行いました。

(4) JICA 草の根技術協力事業「低炭素社会実現に向けた人・コミュニティづくりプロジェクト」(マレーシア)

イスカンダル開発地域における持続可能な低炭素社会を目指した段階的な低炭素教育の実施や地域コミュニティ単位の活動に焦点を置き，小学校及びセカンダリースクール（日本における中学・高校に相当）での低炭素教育の実施の支援や，学校を中心とした地域コミュニティでの環境活動の支援，環境活動を推進する人材育成の支援を3ヶ年のプロジェクトで行っています。平成28年度は現地への専門家派遣を3回，現地関係者の訪日研修を1回実施しました。

(5) JICA 日中友好環境保全センター「環境にやさしい社会構築プロジェクト」支援(中国)

プロジェクトの支援・協力として，2016年7月に北京，及び武漢への専門家派遣を実施し，専門家会議への出席や研修会における講義を行いました。2017年2月には，本プロジェクトの一環のJICA中国・国別研修「環境意識，家庭エコ診断」を受託し，中国の環境教育などの中核を担う研修員を対象に，日本国内での講義や研修旅行を通して，研修員の知識や技術の習得，日本の環境学習施設の運営に関する理解，関連組織とのネットワークづくりなどの支援を行いました。

[3] その他協会事業

(1) 協会ネットワーク・ハブ機能形成

京都を中心とした地域社会，NGO，事業者，行政，教育機関との連携を密にし，各主体を有機的に結びつける「ハブ」になり，様々なパートナー同士の「ネットワーク」を形成し，環境ソーシャルキャピタルの醸成・向上を目指しています。

平成28年度は以下の事業について様々な形で関わりました。

実施日	事業名	実施体制
6月24日	第12回近畿の環境団体情報交流会への参加・発表	主催：NPO 法人近畿環境市民活動相互支援センター（エコネット近畿）・一般財団法人セブーンイレブン記念財団 企画・運営：近畿の環境団体実行委員会 2016
5月29日 6月11日 7月9日 7月10日 7月14日 7月15日	祇園祭ごみゼロ大作戦 2016 への参画・ボランティアリーダー育成研修	主催：祇園祭ごみゼロ大作戦実行委員会 構成団体：美しい祇園祭をつくる会・NPO 法人きょうと NPO センター・京都環境事業協同組合・京都市・NPO 法人京都地球温暖化防止府民会議・NPO 法人 KES 環境機構・五条露店商組合・NPO 法人地域環境デザイン研究所 ecotone・京のアジェンダ 21 フォーラム
7月29日	イオンチアーズクラブ京滋奈良和歌山地区予選会への協力	主催：イオンリテール株式会社近畿・北陸カンパニー
8月6日 8月7日	日本環境教育学会第27回大会への参加と口頭発表	主催：日本環境教育学会
9月～ 12月	大学生による京都 SDGs マップ作成プロジェクトへの協力	主催：京のアジェンダ 21 フォーラム
9月25日 10月8日 10月9日	演劇で学ぼう！環境演劇ワークショップへの協力	主催：特定非営利活動法人フリンジシアタープロジェクト 協力：有限会社ひのでやエコライフ研究所・劇団衛星・ソノノチ
10月16日	YES, WE DO KYOTO! DAY への協力	主催：京都市・スターバックス コーヒー ジャパン株式会社 協力：グンゼスポーツ株式会社・宮井株式会社・スフェラーパワー株式会社・graf・華道家

		元池坊・京都大学の伊勢武史准教授と学生の皆様
11月5日 11月6日 11月7日	清里ミーティング 2016 への参加・事例発表	主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
11月12日 11月13日	第21回「青少年のための科学の祭典～未来をつくるサイエンス&エコ～」実行委員会への参画	主催：「青少年のための科学の祭典」京都大会実行委員会 共催：(公財)日本科学技術振興財団・科学技術館・青少年と科学の会・(公社)京都工業会内
11月19日 11月20日 12月3日 12月17日	課題解決力 UP! ～できることをどんどん増やそう～京都会場「スマホからはじめよう！WEB活用術」への協力	主催：独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部 企画・運営：特定非営利活動法人 イー・ビー・イー

(2) 協会プロモーション・ファンドレイジング

今年度より英語版の協会ホームページを開設し、より多くの方に協会の存在と事業を知ってもらえる環境を整えました。また、「ワン・ワールド・フェスティバル」をはじめとする合計3つの外部イベントにブース出展し、協会及び京エコロジーセンターの事業はもちろん、国際協力や国際理解教育などの取組のPRをしました。ファンドレイジングについては、他団体との共催事業として「環境市民活動のための助成金セミナー」を実施しました。

(3) セミナー・研修、イベントなどの企画・実施

中山間地域を拠点に活動している環境教育団体「NPO 法人都留環境フォーラム」を講師に招き、「馬耕キャラバンワークショップ」を実施しました。都市で活動する当協会と中山間地域で活動している団体同士が協働したことで、環境教育の課題である中山間地域と都市の交流を行うことができました。今まで関わりの少なかった分野で活躍している団体とパートナーシップを築くことで、新たな視点を協会として得ることができました。

(4) 出前講座・講師派遣

出前講座・講師派遣事業では、他団体が主催するセミナーなどへ職員を派遣し、環境学習施設運営やボランティアコーディネーションなどこれまでセンターの管理運営業務で培ったノウハウや、依頼元の要望にあわせて講演や事例発表をおこないました。また、

京都教育大学の授業「環境教育の実践」の企画運営，生物多様性をテーマにした小学校でのワークショップ企画運営，その他国際事業に関連した講師派遣などを10件実施しました。

実施日	事業名	主催
4月13日～ 7月20日	京都教育大学 「環境教育の実践-環境ファシリテーター入門-」企画運営	国立大学法人京都教育大学
6月3日	JICA 集団研修「省エネルギー政策立案」 にかかる研修への講師派遣	一般財団法人 省エネルギーセンター
6月11日	上鳥羽北部いきいき市民活動センター 「グリーンカーテン講習会」への講師派遣	上鳥羽北部いきいき市民活動センター
6月15日	大津市生涯学習センター 「施設ボランティア入門講座」への講師派遣	大津市生涯学習センター
6月29日	立命館大学産業社会学部 出前講座「子どもと地球環境」	立命館大学産業社会学部
8月30日	自治体と JICA の連携強化セミナー ～海外との絆を通じた地方創生に向けて～での事例発表およびパネラー参加	独立行政法人国際協力機構 関西国際センター
10月19日 10月27日 11月2日 11月15日	「洛西地域における生物多様性の取組に係るワークショップ」企画運営	京都市西京区洛西支所
11月19日	課題解決力 UP!～できることをどんどん増やそう～「スマホからはじめよう！WEB活用術」への講師派遣	特定非営利活動法人 イー・ビーイング
2月11日	JICA 草の根技術協力事業「湖南省洞庭湖流域農村水環境改善プロジェクト」 にかかる訪日研修への講師派遣	公益財団法人 淡海環境保全財団
2月13日	JICA 課題別研修「総合的な廃棄物管理（全般）（E）」にかかる研修への講師派遣	特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会

2. 収益事業

[1]貸出スペースの活用

(1) 利用状況

センターでは、会議室などの貸し出しを行っており、利用できるスペースは会議室2、視聴覚室(シアター)、リサイクル工房(実習室A)、エコ厨房(実習室B)が各1となっています。貸出スペースの認知度を上げるためにパンフレットや季刊誌「えこせん」などの効果的な広報などに取り組み、利用者数、利用率の向上に取り組みました。

利用回数	利用者数	使用料金合計
457	5,114	1,106,000 円

※使用料金は全額京都市の収入となります。

※平成 27 年度実績は、利用回数 440 回、利用者数 4,894 名、使用料金合計 1,081,300 円となっております。

Ⅲ 附属明細書

平成 28 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成 29 年 5 月

公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会

～一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則（抄）～

第 34 条 事業報告

3 事業報告の附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項をその内容としなければならない。